

北上市P連会報

第40号

一発行日一
平成31年
(2019年)
2月28日

発行：北上市PTA連合会

企画編集：広報委員会

印刷：北上アビリティセンター



北上市地区対抗駅伝

9月に開催された地区対抗駅伝では、市内16の地区の小中学生から高校生を含む大人までが参加し日頃鍛えた健脚を競い合いました。いろいろな形での地区との交流がありますが、スポーツで地区と関わり合うのは一番親しみやすく、地区の方たちから声援をもらえば、一層自分たちが住んでいる地区への愛着と地域への貢献の意識が湧いてくるのではないのでしょうか。地区住民の皆さんにとっても我が地区の子どもたちの活躍は頼もしいものに映るはずです。楽しみながら、やれることから地区との関わりを学んでほしいと思います。

目次	□特集 教育現場を知る 「今だからこそ考えるべき事」……………P2	□活動紹介……………P8 (母親委員会、広報委員会、研修委員会)
	□PTA紹介(二子小、黒岩小、鬼柳小)……………P4	□報告 研究大会……………P9
	□学校紹介……………P5	□市P連会長あいさつ・編集後記……………P10
	(和賀東中、黒北小、立花小、和賀西中、いわさき小)	



特集

教育現場を知る 「今だからこそ考えるべき事」

日本の教育が変わる！

北上市 PTA 連合会 広報部

超高齢化時代、超スマート社会、グローバル化や人口減少など、今、日本の社会構造は急激な変化を遂げる中、日本経済を支える日本人のワーク・ライフ・スタイルや日本企業の文化に対する考え方などの労働基準法の改正。また、戦後最大規模の教育改革が始まり、教育を取り巻く環境も大きな転換期を迎えている。

日本PTA新聞 H30.4.24 (一部抜粋)

社会の急激な変化が進む中、子どもたちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する事が求められています。

平成30年10月、文部科学省は新時代の教育政策実現に向けた政策局の大編成を行いました。

社会が大きく、かつ急速に変化する中で、生涯学習社会実現の重要性は一層高まり、学校教育と社会教育を通じた包括的で一貫した教育政策をより強固かつ効果的に推進し、誰もが平等に必要な教育や学習を行い、充実した生涯を送る事が出来る環境の実現を目指します。

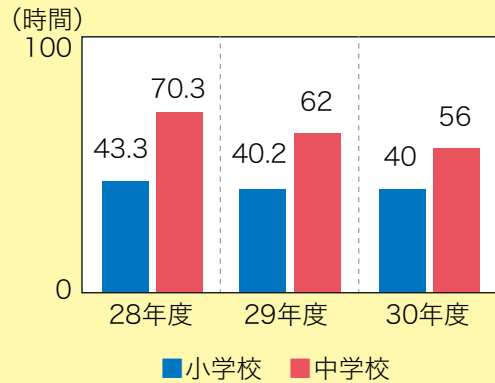
このような背景から、学習指導要領が大きく改訂され、教育の現場ではそれに基づき授業改善実施に向けた取り組みが行われております。

しかしながら、学習指導のみならず学校が抱える課題も年々複雑化・多様化するに従い、おのずと学校(教員)は広範な役割を担いながら生徒や保護者と向き合っているのが実状です。

そんな中、文科省は委託調査研究として、「公立の小・中学校教員勤務実態調査」が実施され、集計とその後の分析調査の結果、教員の勤務実態が看過できない状況にある事が明らかとなりました。北上市の小・中学校教員も例外ではありません。

教育現場の実態

北上市(小・中学校)
教員平均月間残業時間
(毎年7月・12月調査)



H29年6月、文科省推進の「学校における働き方改革に対する緊急対策」が纏められガイドラインが示された事により、30年度集計は若干減少傾向に推移しております。市教委の方策や各学校単位での公務上の改善なども効果として挙げられますが、この措置を受け「持ち帰り残業」が増えている傾向もあり、実際に残業が抑制されたと言い切れないのが実態です。

また、日本では昔から長時間労働が「努力や忠誠心の表れ」と捉えられ、評価対象とされてしまうような風潮があります。

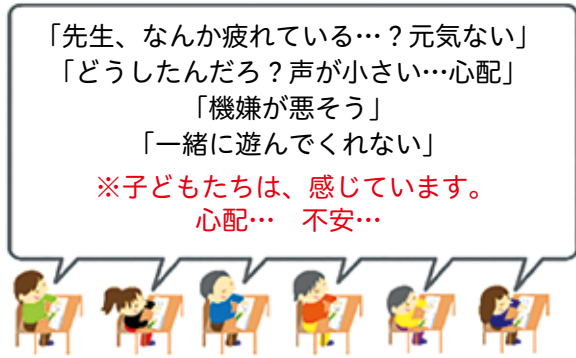
こうした日本人特有の労働観が、日本人＝働き過ぎ、というイメージを助長しているのかもしれない。



※写真：イメージ

休めていますか？「せ、先生…」

疲弊感が蓄積されていませんか、十分な休養がとれていますか、頑張りすぎていませんか？もしかしたら、子どもたちは先生の様子に気付いているかもしれません。



学校教員の働きすぎの背景には、変化への恐怖心もあるかもしれません。

しかし、教員一人ひとりが自分の仕事を見つめ直すことも大切なことだと思います。

「この仕事をなぜ行うのか？」

「今日なぜ残業をするのか？」

より良い教育の根底には、先生方の厚い志と子どもたちへの思いやり、そして健康。そうしたエネルギーからもたらされるものと思います。

PTA = パートナーシップ Partnership

学校教科・科目の構成や目標・内容が新しくなる変化を受けながら、私達保護者の考え方も変えて行かなければならないと考えます。

学校教育と家庭教育、それぞれが担うべき本質的な役割を仕分ける事も重要です。

学校に放任してばかりではなく、ご家庭でも教育理念を掲げ、子どもに接する事です。

また、子どもたちに有効な教育環境を提供できるよう各学校にPTAが組織されておりますが、そこで最も重要なのは、

教員と保護者 = Partnership パートナーシップ (提携、協力関係、共同)

の意識だと思います。

子どもたちの成長を共有しながら、互いの立場や状況を付度し、常に助け合える関係としての相互の確かな協力体制です。

先生方が、日々、子どもたちを導いてくださるように、時には私たち保護者が先生方を導く。

それが「^{きょうせい}共生」です。

教職員の働き方改革について

北上市教育部学校教育課 課長 高橋亨氏

「教育は人なり」の言葉に象徴されるように、子どもたちにとって最大の教育資源は先生です。

先生方が活力に溢れ、意欲的に勤務することが、子どもたちの質を高める事に繋がると考えます。しかしながら、年々学校に求められる課題がより複雑化し、困難化しており、これまで以上に学校の役割が拡大し、先生方への負担が増加している現状が全国的に見られます。

このような状況を改善するために、これからの学校が半ば習慣的に担ってきた業務も多くあることから、「本来は誰が担う業務であるか」、「負担軽減のためにどのように適性を図るべきか」の視点から関係関連との連携、協力を推進していく必要があります。

学校における働き方改革を進めるうえでの課題として、「子どもたちのために」という使命感と責任感により無制限に頑張ってしまう先生方が多いと思います。

先生方一人一人の勤務時間に関する意識改革と制度面での改革が必要だと考えます。

また、保護者や地域の方々にも「学校における働き方改革」について理解して頂き、協力をお願いしていく必要があります。

例えば、中学校の部活動では、週当たり2日以上（平日1日、週末1日以上）の休養を設けること、1日の活動時間は平日2時間程度、休日3時間程度、というガイドラインが示されましたが、各学校でこのガイドラインに沿って部活動を運営するためには、保護者やスポ少の指導者などの理解と協力が必要になってくると考えます。

学校での業務改善の取り組みだけでは、課題解決は難しいので、今後、市教委としての取り組みも進めていきたいと考えています。

今、私たち保護者ができる事とは？

あまり難しく考えなくても、できることから始めていけばいいのです。

PTA活動、学校行事や部活のサポート等、とにかく、皆さん一人ひとりが率先して小さな改革を始めてみることです。

PTA紹介

～飛勢の里～

二子小学校の学区は、「飛勢の里」とも称され、中世・和賀氏の時代に400年の長きにわたってこの地域一帯の政治、文化の中心として栄えたところである。したがって、郷土芸能としての鬼剣舞、神楽などの伝承芸能も盛んであり、遺跡、歴史、自然等の教育環境が整った地であります。

さて、二子小の活動を紹介したいと思います。一つめは、「いもっこフェスティバル」の活動です。二子町は、全国的にも有名な「二子さといも」を特産品とする農業が盛んな地域であります。児童たちの体験活動として、「二子さといも」栽培に力を入れました。また、さといもを収穫して、それを使って芋の子汁を作り、地域でお世話になっている人を



招待して、縦割り班の中に入りみんなで食べるこの活動は、毎年の恒例行事になっています。このとき子どもたちの笑顔がとても輝いて見えます。

もう一つはPTAが主体となり、地域の皆さんと力を合わせながら、子どもたちが朝夕登下校する時間帯や日中、帰宅後の暮らしの中で、挨拶や声かけをしながらより多くの人の目で予防線を張り、犯罪を未然に防ぐことを目的としたボランティア組織「二子小学校安全ボランティア」に力を入れています。

これからも二子地区の子どもたちの笑顔のために学校・家庭・地域が一体となって力を合わせて活動していきたいと思っています。

(二子小学校 吉田 祥次)



～地区を日本一に～

黒岩小学校PTAは会員数41名(教職員9名)で、専門部は広報校外指導部と厚生部の2つ、学級PTAは4つで活動しています。

地域と協力した活動としては、黒岩地区との合同運動会があります。午前は主に小学校、午後は地区の競技が行われます。地区の競技には子どもたちや先生方も参加しています。午後の部は全校児童による「めでた舞」で始まります。地域の皆さんが楽しみにしている演技です。

また、秋には厚生部が主体となって、校舎や体育館の清掃を行います。体育館で行われる地区の敬老会に向けて、毎年親子一緒になって掃除しています。敬老会には5・6年生が「めでた舞」を披露したり子ども会や神楽で参加したりして会を盛り上げています。



黒岩小学校 PTA

この「めでた舞」は、伊勢流黒岩太神楽の副舞として踊られるもので、昭和55年頃から地域の伝承活動として行われています。平成元年からは運動会で全校が披露しています。そして、4・5年生が行う冬の寒稽古では4・5年生PTAがお手伝いをしています。教えてくださる師匠さん方は親も教わった方達です。毎年「湧湧ランドくろいわ・芸・農まつり」や地区交流センターの行事等に出演して活躍しています。

この他にも「黒岩地区を日本一にする会」と協力して、親子であいさつ標語作りや公民館のクリーン活動に取り組んでいます。少ない会員数ですが、学級懇談会をはじめどの行事にもほぼ100%で参加し、子どもたちの活動を盛り上げている黒岩小のPTAです。

(黒岩小学校 眞田 孝男)



想いの共有 ～チーム鬼小2018～ 鬼柳小学校 PTA

今年、創立31年目を迎えた鬼柳小学校。PTAのテーマとして掲げたのは「最高のチームワーク」です。子どもに対し「見守る目・育む力・志を伸ばす想い」を、親・学校・地域が力を結集し、チームワークを以て共に成長していきます。

地域での合い言葉は「ありがとうございます」。地域見守り隊や防犯パトロール、交通安全指導員など地域の方々には「おはようございます」も「こんにちは」も大切ですが、『いつも子どもたちの為に本当にありがとうございます』の感謝の気持ちを伝え続けたいとの思いからです。様々な人たちの支援の手や励ましの声を感じながら「強く、豊かに、おおらかに」育ってくれる事が願いです。



また、郷土芸能の鬼剣舞をはじめ、地域芸能の鹿島太鼓。そして地域活動の野球・サッカー・バスケットボール・鬼剣舞の各スポーツ少年団。子どもたちが様々な体験を通じて「自らの夢」を感じられる様に日夜努力をしております。

更に鬼小・南小の子どもたちが、小学校卒業後、南中で一緒に学ぶにあたり、南中学校区子育て実践協議会や教職員送別会の同日合同開催など『三校連携』を推進しています。同じ地域に住む「想いの共有」から共鳴し育み合えればとの想いでPTA活動に取り組んでおります。

同じ想いを北上市内で共有出来ればと願ひ紹介させて頂きました。(鬼柳小学校 三田 雅崇)

学校紹介

～PTA親子早朝作業～

和賀東中学校

和賀東中学校では、毎年、春と秋に年2回、親子、先生と一緒に校舎の美化活動を行っています。窓ガラス拭きや窓のサンの掃除、蛍光灯をきれいに拭くことやクモの巣除去などを中心に、校舎全体をそれぞれの地区で分担して親子一緒に校舎をきれいにしています。開始時間を早朝6時として行っているため、当日仕事のある父兄の方も参加しやすい伝統の行事となっています。中学校では毎年、春と秋の年2回行っていますが、実際に自分の子どもと一緒に窓ガラスを拭いたりするのは、年1回の大掃除の時ぐらいというご家庭も多いかと思います。子どもだけではなく、親も普段と違う雰囲気の大掃除は楽しみながらできるうえ、家では見せない友達といると

きの子どもの嬉しそうな顔なども見られ、とても素晴らしい伝統行事だと思います。

子どもたちも毎日掃除している校舎でも、実はこんなところが汚れていたとか、窓のサンがかなり汚れていることも分かったと思います。自分たちの通う学校をもっと大切に使用し、生活の中で掃除はとても大切ということもこの行事を通して気付いてもらえたらいいと思います。この行事ではお父さん方の参加がかなり多いおかげで、普段子どもたちができないところの掃除や片付けもできるため、子どもたちにとっても過ごしやすい環境を作ることができます。これからも伝統行事として続いていくことを願っています。(和賀東中学校 小原 和弘)



～「三あ運動」の推進～

黒沢尻北小学校父母と教師の会は、会員相互の教養を高め、家庭・学校・社会における児童の福祉を増進し、教育の振興に寄与することを目的に活動を行っています。

当会の活動の中で、地域との連携を担っている活動に「三あ運動」（あいさつ・安全・ありがとう）の推進、「地区懇談会」での先生・父母・地域の皆様における情報共有、「児童・生徒と語る会」での子どもたちとの意見交換などがあります。

また、当会が特に力を入れている名物事業「いちいまつり」は、約800人の児童とその親が参加し、(1)父母の協力により子どもたちの様々な活動を資金



黒沢尻北小学校

的な面で支え、PTA活動の充実化を図る。(2)子どもたちが楽しみながら参加できる祭りを実施し、友達や地域の人との交流を深めながら心に残る思い出を作る。以上を趣旨に事務局・役員を中心に、年初から計画・準備を進めながら、先生方を含む会員の皆様、PTA役員OBの皆様、地域の皆様のご協力を得て開催しています。内容は、バザーを中心にスーパーボールすくい・射的等の様々なゲームや食堂を運営し、子どもたちに毎年好評を得ています。

そして、来年度は創立40周年を迎えますが、子どもたちの心に残るような事業を開催したいと考えております。(黒沢尻北小学校 小野寺 拓)



～立花地区連携でのバザー開催～

立花小学校



立花小学校は全校児童83名と小規模であり、PTA会員数が少ないため、PTA会費で単独事業を行う事は難しい状況にあります。

しかしながら私たちは、「子どもたちが不自由なく、学校生活を明るく楽しく送る」ことができるよう、PTA三役の他、立花地区交流センター長・自治振興協議会会長を交えて協議し、新規事業として、バザーの開催を常任委員会（※総会に代わる議決機関）で決定しました。収益金は、課外陸上のバス代（競技場への移動）等に充てることで考えが一致しました。

地域へも案内し、11月3日（土）に立花地区文化祭にてバザーを開催しました。PTA会員、学区民の方々には、趣旨を前向きにご理解いただき、子どもたちのお楽しみコーナー（開運おみくじ）も設置し、当日は大盛況に終わりました。売り上げも目標を超え、改めて地域交流の大切さを認識すること

ができました。

今回の事業をきっかけに、これからも親世代と地域の方々が、子どもたちの健全育成のために、気軽に交流・連携ができるようになっていければと思います。バザーは、来年も継続して開催し、地域の皆様と共に成長していきたいと感じました。

(立花小学校 小田島 富士男)



立花地区キャラクターのバナシカ(右)と、てんしょうちゃん(左)

～50周年を迎えました～

和賀西中学校

和賀西中学校は本年度創立50周年を迎えました。去る6月20日には、プレイベントとして航空自衛隊三沢基地に所属する北部航空音楽隊による演奏会を開催し、生徒、教職員、保護者、地域の方々等200人以上が壮大な演奏を存分に楽しみました。

そして11月10日、創立50周年記念式典を本校体育館にて行いました。生徒、地域の方々、来賓、歴任教職員、保護者等、約250人が出席しました。ステージのバック幕は、創立50周年を記念して作成されました。デザインは「過去・現在・未来」をイメージし、たくさんの小さな写真を配置して大きな3つの絵を創り出しています。「明日を創る我ら西中生」の言葉を掲げ、過去から未来への橋渡しを想像させる、記念行事にふさわしい作品となりました。記念式典の後は、腰塚勇人先生による「命の授業」と題して記念講演が開かれました。命の大切さ、家族・仲間の大切さ、当たり前と感じ、忘れかけている幸せについて気づかされる、心に響く講演をいただきました。

午後は記念祝賀会を行いました。3年生による西中ソーランの披露から花々しく幕開けした後、旧職員代表、PTA代表、卒業生代表から当時のエピソードを紹介していただき、和やかに会が進行しました。過去から未来へと伝統が脈々と受け継がれているこ

とを確認でき、先輩方の伝統から多くのことを学び、あらためてたくさんの方々に支えられていることに気づかされると共に、感謝の気持ちを深めることができた素晴らしい式典となりました。

(和賀西中学校 菅野 一成)



～創立10周年記念～

いわさき小学校

北上市立いわさき小学校は平成29年度末をもって創立10周年を迎えました。

この記念すべき節目の年をお祝いしようと平成29年9月、保護者を中心に実行委員会を立ち上げ準備を進めてまいりました。たくさんの方々のご協力をいただき、また、多くのご来賓、保護者の方々のご臨席を賜り、本年度11月10日(土)、無事に記念式典並びに祝賀会を挙行することができました。

また、記念事業として本年度9月に落語家の桂扇生様をお招きし、落語「寿限無」を鑑賞しました。

10月には実行委員会、保護者の皆様、有識者の皆様のお力をお借りし学校の敷地内に畑を作りお披露目会を開催、子どもたちの沢山の想いが詰まった

タイムカプセルを畑に埋め込みました。

さらには過去10年間を振り返る記念誌を作成し、発行することができました。このような事業を無事に実施できたことは、実行委員会の他、保護者の皆様、地域の皆様、各企業の皆様お一人おひとりのご協力によるものと思います。本事業に携わっていただきました全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

この記念すべき節目を機に、先人たちが弛まぬ努力で繋いで下さった襷(たすき)を少しでも良い形で繋いでいくために、学校・家庭・地域の三者が繋がりをより強固なものにし子どもたちを支え、たくさんの笑顔が生まれるよう、今後も「いわさき」の子どもたちを温かく見守っていきたいと思います。

(いわさき小学校 伊藤 文洋)



平成30年度 北上市PTA連合会母親委員会の活動

そもそも母親委員会とは何？私が母親委員会担当として初めて思ったことです。調べていくうちにこんなことが分かりました。

「学校・学区の垣根を越えて共に学び情報を交換し合いながら子育てに生かすため各種研修会をはじめ、委員それぞれが率先して学習会などを企画し子育てに役立つ環境づくりをする」ナルホド！じゃあ次は具体的にどんな研修会をすれば良いのか？私の心配をよそに、積極的な委員の方々からの提案で研修内容がすんなり決まりました。

今年の研修テーマは「子どもたちの安全安心について保護者として心がけること」「食生活の見直しと改善・食育を考える」の2本立てでした。

初回の研修は、北上警察署生活安全課の職員を講師にネット環境を取り巻く犯罪について学びました。今や、未就学児からゲームなどを通じてイ

ンターネットに触れられる時代になり、大人だけでなく子どももサイバー犯罪に巻き込まれる現実。子どもをネット犯罪から守るのは、まず大人が積極的に勉強しなければならないと学びました。

2回目の研修は、西部給食センターにおいて、市内に3つある給食センターの概要や2年後に運用開始される「新中央学校給食センター」の役割など西部学校給食センター所長を講師に食育などについても学びました。そしてお楽しみの給食試食会には、参加者全員が満面の笑顔で舌鼓を打ちながら「私が子どもの頃の給食は…」などと会話に花を咲かせていました。

最後に、母親委員会の活動にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

(母親委員担当 山田 純哉)



平成30年度 北上市PTA連合会広報委員会の活動



今年は例年とは違う広報活動をしよと決めたものの、いざ何をしようかと思悩んでいたところに、夏に開局したコミュニティFM、きたかみE&BeエフエムでPTAについて伝えてみようということになりました。

初の試み、何を伝えられるか!?. PTAの堅いイメージを払しょくするようなトーク番組にしようとして3人、齋藤会長(江釣子小)、田山会長(北上中)と私、阿部(南中)で収録に臨みました。幸い番組パーソナリティの小原史織さんのリードで流れをつかんだつもりでしたが、いざスタジオに入ると業務用マイクに放送機材が並び、外部の雑音も遮断されていて緊張が3人をつつみました。いざ収録開始！もう緊張していてもいけません。



せつかくの機会です。北上市PTA連合会のPR、出演会長3校の紹介、リクエスト曲をかけての番組進行で『PTAの歌』に始まり市内の小中学校校歌、南中に、あい南教室を開室している花巻清風支援学校校歌、また市内の閉校になった学校校歌をかけながら、PTAでの活動紹介、また来年度に向けてのPTA役員募集をしながら収録を終え、内容は12月に放送となりました。

公共電波を使つての初めての活動となりましたが、後日リスナーの方からお便りをいただき、閉校になった母校の校歌を久しぶりに聞けて『学校が身近に感じた、地域活動にも参加していきたい』とのお言葉をいただきました。『広報』の名の通り、北上市内のPTA活動をさらに広く伝えていければと思う広報活動になりました。

(広報委員担当 阿部 修二)



平成30年度 北上市PTA連合会研修委員会の活動

『生きることをあきらめること』

～人生のターニングポイント。
それは諦めること?～



11月11日に行われた今年度の研究大会では、永昌寺副住職、また更木小学校PTA会長でもある海野義範（うんのぎはん）氏を講師に迎え、上記テーマを基に講演いただきました。

モデルやプロスキーヤーとして活躍した異色の経歴を持ちながら僧侶へと転身した住職がどのようなお話をされるのか、演題が『人生のターニングポイント。それは諦めること?』という、一見逆に見えるタイトルからどのような話になるのか興味津々でした。『あきらめる』ことの仏教での解釈、諦める、思いきるの意味の他に明らかにする、明るくさせる、事情などをはっきりさせるという意味があり、『生きることをあきらめる』こととは、

生きることを明らかにすること、目の前の命をはっきりとさせて生きることでした。

講演では、氏の娘さんの友人で、小学2年で病気で亡くなった男の子の短くも明るく生きた人生をお話いただきました。参加した多くの方たちが、もっと生きることを明らかにしていこうと感じたに違いありません。（広報委員長 阿部 修二）



研究大会参加の報告

第66回日本PTA全国研究大会 新潟大会

8月24～25日

新潟での全国大会に参加しました。教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神!の大会スローガンのもとに新潟県内9市10会場でテーマ別に全大会、分科会が開催されました。2018年は日本PTA創立70周年にもあたり、歓迎の垂れ幕も用意され全国からの出席者を歓迎していました。次回の全国大会は兵庫県での開催となります。

(参加者 齋藤 映香市P会長)



第50回日本PTA東北ブロック 研究大会 秋田大会

9月15～16日

秋田での東北ブロック大会に参加しました。大会主題「つながろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう～未来を拓く子どもたちのために～」6つの分科会で研究討議が開かれ翌日の本大会での記念講演では『未来を拓く子どもたちのために』のテーマで女優の菊池桃子さんと秋田出身の橋本五郎さんの対談が行われました。

(参加者数 齋藤会長他7名)



第43回岩手県PTA研究大会 気仙大会

11月4日

子どもたちの健やかな成長を願って～今、私たちにできることは～の大会主題で開催されました。講演ではFMやEテレでおなじみの山本シュウさん（山本レモンさん）のお話を聞きました。レモンのかぶり物で登場し演題『レモンさんのビタミントークでみんな元気になろう』通りに元気になりました。

(参加者数 齋藤会長他26名)



会長あいさつ



北上市PTA連合会
さいとう あきよし
 会長 齋藤映香
 (江釣子小学校PTA会長)

平成30年度北上市PTA連合会会長を務めさせて頂いております、北上市立江釣子小学校PTA会長の齋藤映香と申します。小原前会長のご指導を頂きながら役員・各学校の皆様と協力し合いながら、より良い北上市P連としていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。また、本会報が出る頃には平成30年度もいよいよ終盤に差し掛かってきており、各PTA会員の皆様におかれましても多忙な時間をお過ごしのことと存じます。恐縮ですが今後ともご協力のほど重ねて申し上げます。

さて昨今、教員の多忙についてしばしばニュース等で取り上げられております。文科省のホームページによると、「教員の職務は人間の心身の発達に関わっておりその活動は子どもたちの人格形成に大きな影響を与えるものである」とあります。

言うまでもなく先生方は子どもたちの成長において重要な役割を担っているわけですが、学校教育における課題も時代とともに複雑化・多様化してきており、ますます負担が大きくなっている現状にあります。そういった状況の中で保護者である我々は、様々な活動を通して子どもたちと一緒に各方面にコミュニケーションを積極的に取り、先生・保護者・地域が一体となった教育をしていく必要があると考えます。そして、北上市はそれぞれの地域の特色が強くコミュニティがよく整備されており、三者一体

となった教育が出来る地域だと思っております。

当連合会活動についても各学校同士が連携しコミュニケーションを密にしていく事で先生方をサポート出来るようなより良い教育環境になっていくための一つのツールになればと思っております。

今後とも上記の事を常に頭に入れ皆様のご支援を頂きながら当連合会活動を実践していく所存でございますのでどうか宜しくお願い致します



会長就任の時に新旧役員に
 エールを送る齋藤会長(2018年5月)

平成30年度北上市PTA連合会役員

- <会長> 齋藤 映香 (江釣子小P会長)
- <副会長> 阿部 修二 (南中学校P会長)
- 菊池 伸明 (飯豊中P会長)
- 川邊 民弥 (北上北中P会長)
- 高橋 隆紀 (黒沢尻西小P会長)
- 山田 純哉 (和賀東小P会長)
- <監事> 徳増 全矢 (笠松小P副会長)
- 大山 里佳 (東陵中P副会長)
- 菅原佳代子 (上野中P副会長)
- <顧問> 小原 和弘
 (前市P連会長/和賀東中P会長)
- <事務局長> 松田 進 (江釣子小事務局担当)

平成30年度北上市PTA連合会広報委員会

- <委員長> 阿部 修二 (南中学校P会長)
- <副委員長> 川邊 民弥 (北上北中P会長)
- <委員> 小野寺 拓 (黒沢尻北小P会長)
- 小田島富士男 (立花小P会長)
- 吉田 祥次 (二子小P会長)
- 眞田 孝男 (黒岩小P会長)
- 高橋 英生 (照岡小P会長)
- 三田 雅崇 (鬼柳小P会長)
- 小原 和弘 (和賀東中P会長)
- 田山 理香 (北上中P会長)
- 廣沼 雅秀 (笠松小P会長)
- 高橋 善仁 (江釣子中P会長)
- <事務局> 小野寺賢嗣 (南中学校P事務局)
- 佐藤 良二 (北上北中P事務局)

編集後記

今年度の広報委員長、南中学校PTA会長の阿部修二です。編集後記と言いつつまだ編集作業の真ただ中です。今年度は何をしようかいろいろ思案して、PTA役員以外にも広報活動を周知してもらえよう例年とは少し違った活動をしました。市内26の小中学校と昭和以降に閉校になった学校の校歌集め。同窓会で校歌を歌いたいが歌詞はないのか、と何度か問合せがあったのもきっかけとなり、保護者や先生達の他の方にもPTA広報活動が紹介できればとの思いがありました。50校を超える閉校を含む校歌集は年度内にHPで紹介の予定です。またFMラジオに出演しての校歌をお届けでき、反響があったことは嬉しいことであり、やりがいを感じました。市内26校の代表者が集まり活動のために話し合いを進めていくことは皆仕事もあり大変でしたが、それぞれの地区、学校の情報を持ち寄り知恵を出し合うことで学区を超えての父母仲間、他校の先生方との交流という意識が高まりました。特に夜の懇親会は格別でした。会報発行にあたり感謝の意を表して一言ご挨拶を申し上げます。